

表3. Rankin Scale 悪化例 (2ランク以上)

2002年					
施設名	A	D	D	H	I
年間手術数(2001年)					
動脈瘤手術数(2001年)					
うち未破裂瘤手術数(2001年)					
	1266885	3264124	4785267	9822	7
治療、未治療共通	S				
患者の年齢	59	74	61	68	82
性	F	F	M	M	女
既往歴、合併症	なし	無し	高血圧	喫煙、飲酒、高血圧、ラクナ梗塞	高血圧、無症候性ラクナ梗塞
動脈瘤の部位	右MCA	右MCA trifucation	右Ictop	左MCA	右IC-PC
大きさ	5x5	8x6	5x3	6x6	10x10
ネックの幅		8			3
動脈硬化、石灰化の有無	あり	なし	なし	なし	なし
血栓化の有無	なし	なし	なし	なし	なし
穿通枝の関与	なし	なし	あり	なし	なし
治療した動脈瘤					
術前 Rankin score	0	1	0	2	1
mini-mental state test				30	
術後 Rankin score	2	3	2	4	5
mini-mental state test					
神経脱落症状	運動障害	その他	失調症	無	運動障害、意識障害
神経脱落症状の原因	穿通枝障害	穿通枝障害	穿通枝障害		穿通枝障害
周術期のその他の合併症		痙攣、硬膜下水腫	あり、術側のSDH	無	無
合併症の原因	麻酔時の要因	動脈瘤と癒着した穿通枝の剥離家庭で閉塞、脳梗塞、痙攣重積発作を起した			高リスク(高齢、動脈硬化、高血圧)、術中低血圧
	技術的要因				
術者の動脈瘤手術件数(およそ)	不明	101-200	101-200	1-51	101-200

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
中川俊男	脳卒中の予防- 脳ドック	監修 端和夫 編集 齊藤孝次	脳卒中の 画像診断	メデイカル トリビューン	東京	2001	26-31

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
中川俊男	クモ膜下出血は予防可能か？	Vita	18	26-29	2000
端 和夫	The brain dock for prevention of cerebral stroke	Sapporo Med J	69 (Suppl)	82-85	2000
端 和夫	総括・コメント Brain attack 最前線	The Mt. Fuji Workshop on CVD	18	224	2000
端 和夫	未破裂脳動脈瘤の データバンク	脳外	28	1044-1045	2000
端 和夫	脳底動脈瘤の手術	北野病院紀要	45	61-69	2000
上出廷治 端 和夫	重症クモ膜下出血の病態生理	集中治療	12	713-722	2000
端 和夫	無症候性脳動脈瘤に 対する対策	Current Therapy	19	593-596	2001
八巻稔明 端 和夫 中川俊男 齋藤孝次	脳動脈瘤	脳神経	53	313-317	2001
端 和夫	UCAS JAPANの方法論と EBMとしての価値	脳外誌	10	592-595	2001
端 和夫	巨大脳動脈瘤	日本医師会雑誌特別号	125	S232-S238	2001
本望 修 上出廷治 端 和夫	未破裂動脈瘤への対応	診断と治療	89	2047-2052	2001
端 和夫	わが国の脳卒中医療の 現状と展望	メデイカル朝日	30巻7号	68-69	2001
端 和夫	無症候性未破裂脳動脈瘤の 破裂率と対策	医学のあゆみ	別冊「脳 血管障 害」	184-187	2001

#### IV. 研究成果の刊行物・別冊

20010515

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、  
P.41の「研究成果の刊行に関する一覧」をご参照ください。